

# 特別支援教育の視点を意識した振り返り

～書くことが苦手な子どもたちへの手立て～

文字を書くこと自体が嫌になってることが考えられます。

## ①書くことの苦手さを和らげる

- ・まずは、得意な教科や好きな教科で書くことの抵抗感を減らす。(振り返りの習慣化を図る。)
- ・教師や友だちから評価されたり、褒められたりすることで自信に繋げる。
- ・教員同士で振り返りの際の手立てについて共通理解を図る。

学習したことを整理することに苦手さが考えられます。または、活動に乗り遅れるために、振り返りの活動に行きついていない場合もあります。

## ③時間を十分与える

- ・家庭学習で振り返りの機会を設け、後日交流する場面を授業の中に取り入れる。
- ・構造的な板書や思考ツール等を用いて学習したことが見て分かるようにする。
- ・授業の中で活動に乗り遅れないように、声かけや負担を減らしながら書く時間に配慮する。



## ②文字表記の苦手さを和らげる

- ・まずは、記号や音声言語で表現することから始める。
- ・支援員や授業担当教員、他の教員が聞き取ったり、ICTを活用し、文字に書き起こしたりしてから、実際に自分で書いたり、書き起こしたものを印刷したりする。

文字習得に課題があることが考えられます。書きたいことがあっても、文字を思い出している間に、書きたかったことを忘れてしまいます。

## ④書く視点を与える

- ・書く視点を具体的に示したり、振り返りの交流を通して他の友だちの意見から書き方を学ぶ。
- ・書き方のモデルを示す。  
※できた、分かっただけではなく、「～すれば、～できることが分かった」や、「習った〇〇の方法を使えることが分かった」等学習方法や学習内容等も書く。

何を書けばいいかが分かりにくいことがあります。

- ◎振り返りを通して、自分に合った学習方法に気付いたり、できるようになったことを積み重ねたりしながら、自己肯定感を高めて行きましょう。
- ◎学習が断片的になり、見通しがもてないと不安になります。本時の振り返りを次時に繋いでいく等、毎時間の学びが繋がるような授業づくりを意識しましょう。